

以下の英文と表を読んで、設問に答えなさい。

本文

At one high school, teachers noticed that many students wanted to study after classes but could not always stay in the same place for a long time. Some had club activities, some had long commutes, and others simply found it difficult to concentrate in a crowded classroom. In response, the school introduced three kinds of study support in 2022.

The first was the Quiet Room, where students could study silently by themselves after school. The second was the Question Desk, where teachers and senior students answered short questions about homework and tests. The third was the Online Review Room, where students could watch short lesson videos and send questions from home.

At first, the school expected the Question Desk to be the most popular service. However, the Quiet Room quickly became the most widely used. A student survey suggested that many students did not need more study time; instead, they needed fewer interruptions. For them, the value of the Quiet Room was not special teaching, but the chance to focus.

Even so, ①the pattern did not remain the same throughout the year. Before major tests, the number of students visiting the Question Desk increased sharply. This was especially true among second-year students, who often wanted quick help with difficult points rather than a long explanation. Meanwhile, the Online Review Room grew steadily from year to year. Teachers believe this happened for two main reasons. First, students with long commutes could continue studying after they got home. Second, students with busy schedules liked the fact that they could choose the time and pace of their review.

The school also found an unexpected result. Students who regularly used two different services reported lower stress than students who used only one. Teachers think this was because students could match the kind of support to the situation. On some days, they needed a quiet place to work alone. On other days, they needed a quick answer or a short review at home.

The tables below show the average number of student visits per week to each service and the main reasons students chose them in 2024. These results suggest that an effective study program may not be the one that gives every student the same support. Instead, it may be the one that gives students different choices for different needs.

データは全て架空のものです。

注 interruptions : 中断・邪魔 concentrate : 集中する

steadily : 着実に

Table 1: Average Number of Student Visits per Week

Year	Quiet Room	Question Desk	Online Review Room
2022	120	80	60
2023	150	95	100
2024	170	140	120

Table 2: Main Reason Students Chose Each Service in 2024

Service	Main Reason 1	Main Reason 2	Main Reason 3
Quiet Room	can concentrate better (58%)	useful between activities (22%)	no reservation needed (20%)
Question Desk	can ask small questions quickly (46%)	useful before tests (39%)	can study with friends nearby (15%)
Online Review Room	can use it at home (49%)	fits a busy schedule (34%)	can repeat explanations (17%)

1. 次のうち、**Table 1**の内容と一致するものはどれか。

- ア. The number of visits to the Online Review Room in 2024 was less than that in 2022.
- イ. The Quiet Room had fewer visits than the Question Desk in every year shown.
- ウ. The Question Desk showed a larger increase than the Quiet Room from 2022 to 2024.
- エ. The number of visits to the Online Review Room was the highest among the three in 2023.

2. 次のうち、**Table 2**の内容によって最もよく裏づけられるものはどれか。

- ア. Most students chose the Quiet Room because they could ask questions quickly.
- イ. Students who use the Online Review Room tend to value flexibility and independent review.
- ウ. The Question Desk is mainly used by students who want to study alone in silence.
- エ. Students choose the Quiet Room mainly because it allows them to repeat explanations.

3. 下線部①の“the pattern did not remain the same throughout the year”を最もよく説明しているものはどれか。

- ア. Students completely stopped using the Quiet Room during test season.
- イ. The most useful service changed depending on the time and situation.
- ウ. Teachers changed all three services every few months.
- エ. Students used the same service in exactly the same way all year.

4. 2022年から2024年にかけて、週あたりの利用回数の増加率が最も大きかったのはどのサービスか。

- ア. Quiet Room
- イ. Question Desk
- ウ. Online Review Room
- エ. They all increased at the same rate.

5. 次のうち、この文章の主旨を最もよく表しているものはどれか。

- ア. Schools should stop offering face-to-face study help because online study is enough.
- イ. Students with long commutes should not join after-school study programs.
- ウ. Silent study is clearly better than asking teachers questions.
- エ. A successful study support program should provide several options instead of only one.

解答

1.ウ 2.イ 3.イ 4.ウ 5.エ

日本語訳

ある高校では、放課後に勉強したいと考えている生徒が多い一方で、同じ場所に長時間とどまることが難しい生徒も多いことに教師たちは気づいた。部活動がある生徒もいれば、通学時間が長い生徒もあり、また単に混雑した教室では集中しにくいと感じる生徒もいた。そこで学校は、その対応として2022年に3種類の学習支援を導入した。

1つ目は「クワイエットルーム」で、生徒が放課後に一人で静かに勉強できる場所である。

2つ目は「質問デスク」で、教師や上級生が宿題やテストに関する短い質問に答える場である。

3つ目は「オンライン復習ルーム」で、生徒が自宅で短い授業動画を視聴したり、質問を送ったりできる仕組みである。

当初、学校は「質問デスク」が最も人気になると予想していた。しかし、実際には「クワイエットルーム」がすぐに最も多く利用されるようになった。生徒への調査から、多くの生徒に必要なのは勉強時間の増加ではなく、「邪魔されない環境」であることが分かった。彼らにとってクワイエットルームの価値は特別な指導ではなく、集中できる機会にあった。

それでも、この利用傾向は一年を通して一定ではなかった。大きな試験の前になると、「質問デスク」を利用する生徒の数が急増した。特に2年生にその傾向が強く、長い説明よりも難しいポイントについての素早い助けを求めることが多かった。一方で、「オンライン復習ルーム」は年々着実に利用が増加していった。教師たちはその理由を主に2つ挙げている。第一に、通学時間の長い生徒が帰宅後も勉強を続けられるからである。第二に、忙しい生徒が自分の都合に合わせて時間やペースを選べる点を好んだからである。

また、学校は予想外の結果も発見した。2種類のサービスを定期的にご利用している生徒は、1種類のみを利用している生徒よりもストレスが低いと報告していた。教師たちは、これは生徒が状況に応じて適切な支援を選べるためだと考えている。ある日は一人で静かに勉強する場所が必要であり、別の日には素早い回答や自宅での短い復習が必要になるのである。

以下の表は、2024年における各サービスの週あたりの平均利用者数と、生徒がそれらを選んだ主な理由を示している。これらの結果は、効果的な学習プログラムとは、すべての生徒に同じ支援を与えるものではない可能性を示している。むしろ、生徒それぞれのニーズに応じて異なる選択肢を与えるものこそが効果的であるといえる。

解説

第1問

問題 次のうち、Table 1の内容と一致するものはどれか。 **正解 (ウ)**

ア 2024年のOnline Review Roomの利用回数は、2022年より少なかった。
表を見ると「2022年：60 / 2024年：120」なので、2024年の方がかなり多い。
したがって誤り。

イ Quiet Roomは、示されたすべての年でQuestion Deskより利用回数が少なかった。
表を見ると
2022年：Quiet 120、Question 80 / 2023年：Quiet 150、Question 95
2024年：Quiet 170、Question 140
すべての年でQuiet Roomの方が多。したがって誤り。

ウ 2022年から2024年にかけて、Question Deskの増加はQuiet Roomの増加より大きかった。
増加量を計算すると

「 Quiet Room : 170 – 120 = **50** / Question Desk : 140 – 80 = **60** 」

Question Deskの方が増加量が多い。したがって**正解**。

エ 2023年に、Online Review Roomの利用回数は3つの中で最も多かった。

2023年は「 Quiet Room : 150 / Question Desk : 95 / Online Review Room : 100 」

最も多いのはQuiet Room。したがって**誤り**。

第2問

問題 次のうち、Table 2の内容によって最もよく裏づけられるものはどれか。 **正解 (イ)**

ア 多くの生徒がQuiet Roomを選んだのは、すぐに質問できるからである。

quickly ask questionsに対応するのはQuestion Desk。

Quiet Roomの主な理由は「can concentrate better」など **したがって誤り**。

イ Online Review Roomを使う生徒は、柔軟性と自分のペースでの復習を重視する傾向がある。

これは表の内容とよく合う。なぜなら「can use it at home / fits a busy schedule / can repeat explanations」という理由は、**時間や場所の自由さ、自分のペースで復習できること**を表しているから。 **したがって正解**。

※ can repeat explanations = 「解説(説明)を何度でも見直せる」

直訳 「説明を繰り返すことができる」

「先生が何回も説明してくれる(受け身)」ではなく、自分で何回でも見返せる(能動)
一言でいうと「**動画などの説明を、自分の好きなだけ繰り返し見られる**」

※ independent review = 「自分一人で行う復習」

independent : 独立した / 自分でやる review : 復習

ウ Question Deskは、静かに一人で勉強したい生徒に主に使われている。
静かに一人で勉強したい、というのはQuiet Roomの特徴。 したがって誤り。

エ 生徒がQuiet Roomを選ぶ主な理由は、説明を繰り返し見ることができるからである。
repeat explanations は Online Review Room の理由。 Quiet Roomではない。
したがって誤り。

第3問

問題 下線部①の “the pattern did not remain the same throughout the year” を最もよく説明しているものはどれか。 正解 (イ)

下線部の意味を考える

the pattern did not remain the same throughout the year = 「そのパターンは一年を通して同じままではなかった」

ここでいう pattern は、**どのサービスがどう使われていたかという傾向のこと。**

本文ではそのあとに、「major tests の前には Question Desk の利用が急増した / 一方で Online Review Room は年々着実に増えた」とある。

つまり、利用のされ方がずっと同じではなく、**時期や状況によって変わった**ということ。

ア テストの時期には、生徒はQuiet Roomを完全に使わなくなった。
「Question Deskが増えた」とはあるが、Quiet Roomを完全にやめたとはない。
したがって誤り。

イ 最も役立つサービスは、時期や状況によって変わった。

これは本文の内容とぴったり合う。平常時とテスト前では必要な支援が違い、生徒は状況に応じて使い分けていた。したがって**正解**。

ウ 先生たちは数か月ごとに3つのサービスすべてを変えた。

本文は「利用の傾向」が変わったと言っているのであって、サービスの内容そのものを先生が変えたとは書いていない。したがって**誤り**。

エ 生徒たちは一年中、まったく同じやり方で同じサービスを使っていた。

これは下線部と逆。

「同じままではなかった」と書いてあるので、当然合わない。したがって誤り。

第4問

問題 2022年から2024年にかけて、週あたりの利用回数の増加率が最も大きかったのはどのサービスか。 正解（ウ）

ここは「増加率」がポイント

この問題は、単に増加量だけではなく、どれが元の数に比べてどれだけ増えたかを見る問題。

各サービスを計算する

Quiet Room

「2022年：120 / 2024年：170」 増加量：50 「増加率： $50 \div 120 \times 100 =$ 約 **41.7%**」

同様に、Question Desk = 75% Online Review Room = 100%

最も大きいのは **Online Review Room**。 したがって**ウ**が正解。

増加量は「Question Desk ・ Online Review Room」は同じ、増加率は異なる。

第5問

問題 次のうち、この文章の主旨を最もよく表しているものはどれか。 正解（エ）

この本文の流れはこう。

1. 放課後学習に問題があった
2. 学校が3種類の支援を始めた
3. それぞれに違う役割があった
4. 生徒は状況に応じて使い分けていた
5. 同じ支援を全員に与えるより、**複数の選択肢を用意することが大事だとわかった**

ア 学校は対面の学習支援をやめるべきである。オンラインだけで十分だから。

本文は**複数の支援を組み合わせることが有効**と言っている。

したがって**誤り**。

イ 通学時間が長い生徒は放課後学習プログラムに参加すべきではない。

本文では逆に、そういう生徒のためにOnline Review Roomが役立ったと述べている。

したがって**誤り**。

ウ 静かに勉強することは、先生に質問することより明らかに優れている。

本文はQuiet Roomだけを一番良いとは言っていない。場面によってQuestion DeskもOnline Review Roomも必要だった。したがって**誤り**。

エ 成功する学習支援プログラムは、一つだけでなく複数の選択肢を提供すべきである。

これは本文全体の結論「**複数の選択肢を用意することが大事**」と一致する。

したがって**正解**。

単語

notice : 気づく

find : 気づく / 見つける / ~だと感じる → find it ~ to __ : __が~だと感じる

crowded : 混んだ in response : 対応として introduce : 導入する

expect : 予想する / 期待する → expect A to be ~ : Aが~になると予想する

survey : 調査 suggest : 示す interruption : 中断 / 邪魔 value : 価値 / 重要性

remain : ~のままにいる throughout : ~を通して especially : 特に

explanation : 説明 meanwhile : 一方で steadily : 着実に

commute : 通学(する) / 通勤(する) review : 復習 / 見直し unexpected : 予期せぬ

match A to B : AをBに合わせる / Bに応じてAを使い分ける

effective : 効果的な

文法ポイント

- Some had club activities, some had long commutes, and others simply found it difficult to concentrate in a crowded classroom.
some ～, others ～ / ～な人もいれば～な人もいる
found it difficult to concentrate / it = 仮目的語（形式目的語）to concentrate = 真の目的語
- The first was the Quiet Room, where students could study silently ～
where で前の名詞 the Quiet Room を説明「どんな場所かという、生徒が静かに勉強できる(場所)」
- However, the Quiet Room quickly became the most widely used.
the most widely used (service) / 前文の At first, the school expected the Question Desk to be the most popular service. の下線部 service が省略された形
- 「現在分詞」動詞にing の形で「～している / ～する」
「後ろから名詞を修飾(説明)」
Before major tests, the number of students visiting the Question Desk increased sharply.
「質問デスクを訪れる生徒の数」
- Second, students with busy schedules liked the fact that they could choose the time and pace of their review.
「第二に、忙しい生徒はある点を好んだ」that で前の名詞 the fact を説明「どんな点かという、彼らが復習の時間やペースを選べる(点)」
that = 同格のthat（内容説明） / the fact that ～ = 「～という事実（内容）」
- Students who regularly used two different services reported lower stress than students who used only one.
主語・動詞は「students reported」
「2種類のサービスを定期的に利用している生徒は報告した」

- Teachers think this was because students could match the kind of support to the situation.

「生徒が状況に応じて適切な支援を選べる」（生徒は状況に対してある種の支援を合わせることができる）

- These results suggest that an effective study program may not be the one that gives every student the same support. Instead, it may be the one that gives students different choices for different needs.

「one = study program」

「すべての生徒に同じ支援を与えるような学習プログラム」ではなく「生徒それぞれのニーズに応じて異なる選択肢を与える学習プログラム」